

旧長崎英国領事館

国指定重要文化財



©長崎市所蔵

安政5年(1858)、日英修好通商条約が締結され、開港場となった長崎には、翌年英国領事館が置かれ、外交事務が始められました。現存する旧長崎英国領事館は、明治41年(1908)に英国人ウィリアム・コワンの設計に基づき、日本人の施工者によって新築されたものです。

本館、附属屋、職員住宅をはじめ、各建物の質が良く敷地全体にわたって建築当時の姿をとどめています。また、保存修理中には、衛生設備や旗竿の基礎などの地下遺構が新たに確認され、当時の技術が確認できます。

令和7年(2025)に約11年に及ぶ保存修理工事が終わり、領事館本館1階を、長崎の英国領事館や居留地の歴史、そして、アンティーク家具とともに当時の英国文化をご紹介します展示室として整備しました。また、書斎や寝室など、領事とその家族の私的な空間の2階は、戦後の長崎を訪れ旧居留地を描いた日本洋画家野口彌太郎の記念美術館として絵画の展示を行っています。

沿革

1908年	長崎英国領事館現在地に建替、新築
1942年頃	英国領事館閉鎖
1955年	長崎市が買収
1957年	長崎市立児童科学館、教育研究所を設置
1990年	国の重要文化財に指定される
1993年	長崎市野口彌太郎記念美術館として開館
2014~2025年	保存修理工事
2026年	旧長崎英国領事館/野口彌太郎記念美術館として開館



利用案内

1F 領事館展示室

2F 長崎市野口彌太郎記念美術館

- 開館時間 | 午前9時~午後5時(最終入場:午後4時30分)
- 休館日 | 毎週月曜日(祝日を除く)、年末年始(12/29~1/3)
- 入館料 | 一般700円、小中高生350円



- 路面電車:「大浦海岸通り」下車徒歩3分
 - バス:「メディカルセンター」下車徒歩2分
- ※専用駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。



旧長崎英国領事館

THE FORMER BRITISH CONSULATE in Nagasaki

〒850-0918 長崎市大浦町1番37号 TEL.095-821-3205



〈施設HP〉

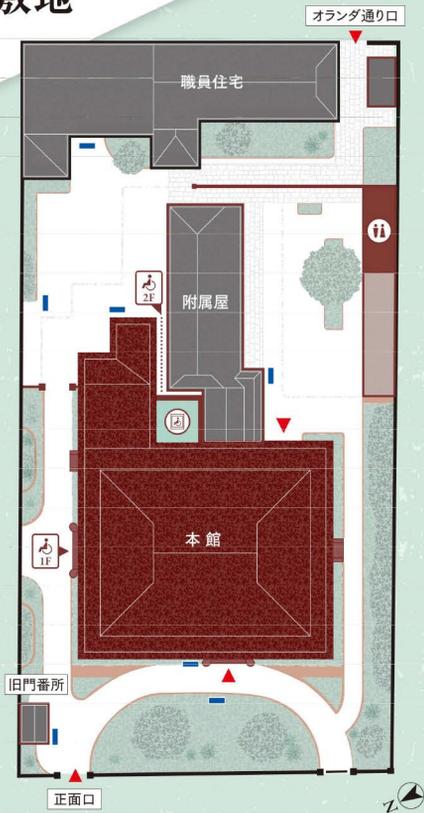


旧長崎英国領事館

THE FORMER BRITISH CONSULATE in Nagasaki

1908

敷地



国指定重要文化財 旧長崎英国領事館

【DAIA】

指定年月日:平成2年3月19日

指定範囲:本館、附属屋、職員住宅

(附)旧門番所、職員住宅便所、煉瓦塀及び石塀
領事館敷地

本館

2F 野口彌太郎記念美術館



野口彌太郎は、日本のフォービズムの画風を確立した洋画家です。海外での制作活動を行う一方、戦後は、長崎の人情と風景美に魅せられ、たびたび長崎を訪れ、異国情緒を遺す町並みや人物を描きました。

野口彌太郎(1899～1976)

寢室であった部屋を活用した美術館では、昭和初期から晩年に至るまでの油彩、水彩等の取蔵作品を展示しています。



●書斎

領事のプライベートな空間。マントルピースの意匠には当時の国王エドワード7世を示す「ER」(エドワード・レックス)の刻印と王冠が施されています。

1F 領事館展示室

領事事務室

領事の執務空間を再現。英国領事館の仕事のほか、大英帝国や当時の国際関係について展示。デスクや書棚には当時の領事やスタッフを紹介するコンテンツが隠されています。

●車庫
領事の専用車庫でした。保存修理工事で発見された建築部材などを展示。

●車庫

石炭庫

船船事務室
[事務室]

●アシスタント室

旧長崎英国領事館の建物の価値を伝えるコーナー。建物の特徴や2014・2025年に行われた保存修理工事について、模型やデジタルコンテンツで紹介。

●控室

領事館を訪れた人の待合室でした。長崎外国人居留地の歴史を、キーワードやデジタルコンテンツで紹介。

正面口



●書記室

領事館の歴史を英国領事たちが教えてくれる映像シアター。長崎英国領事館の開設から閉鎖までを時代ごとに、3つのストーリーで紹介。(映像約15分)

●食卓・応接間

アンティーク家具を配置し、英国風の生活空間を演出。季節の楽しみや紅茶の嗜みなど、英国の生活文化を紹介。



※部屋名は1912年の平面図(英国公文書館蔵)を基に翻訳したものです。